

# 平成28年度 南アルプス市立若草小学校 第2回自己評価書

若草小学校

校長 沢登 一浩

## 本年度の学校教育目標

- かしこい子ども
- 美しいものに感動する子ども
- 思いやりのあるやさしい子ども
- たくましく生きぬく子ども

## 本年度の学校経営基本方針

- (1) 「生きる力」を育むために調和のとれた教育課程の編成と円滑な実施に努める。
- (2) 確かな学力を育むための指導と評価に努める。
- (3) 豊かな心を持った人間味あふれる子どもの育成に努める。
- (4) たくましく生きるための健康と体力の向上に努める。
- (5) 家庭や地域社会との連携のもとで、安心・安全で信頼される学校づくりに努める。
- (6) 教職員が相互に協調・信頼し合い、創意と活気に満ちた学校づくりに努める。

## 1 評価方法

児童、保護者、教職員の3者に対して、アンケート用紙により回答を得た。

質問に対する回答選択肢は4段階になっている。

A：そう思う

B：ほぼそう思う

C：あまりそう思わない

D：そう思わない

の4段階で、このうちAとBは肯定的なプラス評価であり、CとDは否定的なマイナス評価である。AとBのどちらを選ぶか、CとDのどちらを選ぶかについては、回答者の判断材料の有無・回答時点の状況等が関係するため、A・B・C・Dを厳密に区別して集計することよりも、A・B合わせてのプラス傾向、C・D合わせてのマイナス傾向として集計する方が、全体的な傾向をつかみやすくなる。そこで、各項目の回答に占める「A・B」の割合、「C・D」の割合を求め、

- 「A・B」の割合が大きいほど肯定的評価（プラス評価）
  - 「C・D」の割合が大きいほど否定的評価（マイナス評価）

と判断をした。

## 2 全体評価

### I 学校生活について

#### 【学校生活について（後期） 考察】

##### 1の項目「学校は楽しいですか」について

「学校が楽しい」と感じている割合は、児童・保護者ともに高い。1学期同様、肯定的な回答の中で「ほぼ」の割合は保護者の方が高く、児童の結果と楽しいと感じている割合に若干の相違がみられる。5.0%の否定的な回答をした児童が楽しいと思える学校生活を送ることができるよう改善を図りたい。

##### 2の項目「みんなで力を合わせがんばっている」について

学校生活を送る上で、良好な人間関係を築いていくことは大切である。一人ひとりが学級への所属意識を持ち、存在感を味わうことが大切である。児童アンケートでは、前期と同様に後期のアンケートでも、「みんなで力を合わせがんばっている」と感じている割合は高い。

##### 3の項目「困った時に誰かに相談できる」について

児童は、日常生活の中で様々な困難に遭遇する。一人で考えこんだり悩んだりせずに、相談できる人がいることはとても大切である。肯定的な回答は約9割あり、1学期に引き続き概ね満足できると考える。相談しやすい体制を今まで以上に構築し、一人ひとりの児童にしっかりと目を配り、児童が孤立しないような指導を心がけていきたい。

##### 4の項目「あいさつ」について

児童会やPTAの協力も得て、学校全体であいさつ運動に取り組んできた。1学期同様に児童のあいさつに対する意識の割合は高い。学校や地域の中で元気よくあいさつができるよう今後もあいさつ運動の取り組みを充実させていきたい。

##### 5の項目「係や当番の仕事・そうじ」について

係活動や清掃活動はとても進んでよくやっている。これからも校内美化や環境整備に努め愛校心を育てる教育活動を展開していきたい。

### II 学習指導について

#### 【学習指導について（後期） 考察】

##### 1の項目「学校の授業がわかる」について

「学校の授業がわかる」ことは、学校生活を送る上で最も大切なことの一つである。児童・保護者ともに肯定的な回答が90%以上あり、概ね満足できる結果である。基礎的な学力が身につく指導については、保護者の回答では、肯定的な意見が100%を示す学年もあり、保護者からの信頼が厚いことを感じる。今後も保護者への理解と協力を得る中で、さらなる授業改善に努力していきたい。否定的な回答をした4.6%の児童に対し、授業を楽しく感じられるように、基礎基本を大切にしたい。授業を展開していきたい。

## 2の項目「先生や友だちの話をしっかり聞く」について

話を聞く態度の育成には、校内研究会等を通し全職員で研究を進めてきた。児童の肯定的な回答が多く、集中して授業に取り組んでいる。その一方で、保護者の「そう思う」の割合が低下した学年があった。まとめの時期に入るが、今まで以上に授業改善を図り保護者への理解を深めていきたい。

## 3の項目「授業中の発言」について

発言をすることに対して、保護者アンケートではどの学年も肯定的な回答が90%以上またはそれに近い数字であった。それに比べ、児童アンケートでは、5・6年生の「そう思う」の割合が低い。5年生は1学期より改善したが、6年生は反対に下がってしまった。自分の考えを伝え合う学習を取り入れ、授業方法を工夫してきたが、さらなる改善が必要である。

## 4の項目「宿題や自主学習」について

家庭学習については、児童の肯定的な回答が低下しているその一方で、保護者は肯定的な回答が増えている。保護者としては満足できる質と量なのに対して、児童にとっては、やや量が多いことが考えられる。1学期・2学期と学期1回行われる家庭学習強化週間などを通し、呼びかけを行い、家庭の協力を得てきた。学力の定着において家庭学習はとても大切である。今後も家庭の協力を得ながら、十分な定着が図れるように指導をしていきたい。

### Ⅲ 生徒指導について

#### 【生徒指導について（後期） 考察】

##### 1の項目「きまりや約束を守る」について

児童の生活の中心は学校生活であり、学校の約束や決まりを守り生活できることはとても重要である。児童も保護者もほぼ90%以上が肯定的な回答をしており、1学期に引き続き満足できる結果と考えられる。一方、全校では、4.2%の否定的な回答をした児童も存在している。一人ひとりの児童にしっかりと目を向け、指導にあたりたい。

##### 2の項目「いじめや悪いことをしたら先生や友だちに言う」について

いじめや非行行動に対し、先生や友だちに言えると多くの学年で肯定的な回答の割合は高い。6年生の肯定的な回答が低下していることを念頭に置き、いじめや非行行動の未然防止や早期発見・早期対応は重大事案に対処する基本であることから、いじめや悪いことをしている人を見たら早期に先生や友だちに伝えることに重点を置いて指導していきたい。

##### 3の項目「学校はいじめのない学級づくりに取り組んでいる」について

いじめのない学級づくりは、最も大切にしたい学級経営の一つである。保護者の回答では、全学年において肯定的な回答が多い。今後も全ての児童がいじめのない居心地がよいといえる学級づくりを目指して学級経営にあたりたい。

## IV 学校経営について

### 【学校経営について（後期） 考察】

#### 1の項目「学校行事」について

「学校行事は、子どもたちが楽しく参加できるように実施されている」の項目について、肯定的な回答が90%以上であった。児童は行事を通して多くのことを学んでいく。充実した学校生活を送るうえで学校行事の果たす役割は大きいと考える。運動会や学芸発表会など、学年の実態に合わせ趣向を凝らした内容となっている。今まで積み重ねてきた伝統を大切に、児童にとってより有意義な学校行事が展開されるよう努めたい。

## V 研究について

### 【研究について（後期） 考察】

#### 1の項目「校内研究会」について

100%の職員が主体的に校内研究会に参加し、授業力の向上に努めていると回答している。

「Ⅱ 学習について」の項目の中で、授業が分からないと回答した4.6%の児童、聞く態度や発言することに否定的な回答をしている1.9%の児童へ、今まで以上にきめ細かな指導を行っていききたい。また、家庭学習の在り方については今後も継続した取り組みを続け保護者の理解を得ていききたい。また、今後もさらに研究を重ね、個々の授業改善を図り児童の学力向上に努めていきたい。

#### 2の項目「特別支援教育」について

特別支援教育に対する校内支援体制については、そう思うの割合が100%であり、1学期以上に支援体制が向上していると考えられる。本校は特別支援クラスが3クラスあり、また普通学級の中にも支援を必要とする児童が在籍している。定期的に行われる特別支援校内委員会や臨時のケース会議などを通し、児童の情報交換を密に行い全職員が共通理解した上で支援を行ってきている。これからも一人ひとりを大切に、ともに学び合う学校づくりに努めていきたい。

## VI 施設・設備・安全管理について

### 【施設・設備・安全管理について（後期） 考察】

#### 1の項目「安心・安全な教育環境」について

学校は、子どもにとって安心で安全な場所でなければならない。定期的に安全点検を実施し、子どもたちの過ごしやすい環境整備に努めてきた。保護者からは高い評価を得ている。安全点検、訓練、設備修理等をこまめに行い、児童の安全確保と事故防止について努力していることが評価されている。

#### 2の項目「安全確保や事故防止」について

子どもたちの安全確保や事故防止についても、日々の指導の充実を図り、様々な場面を想定して訓

練を実施している。また、保護者と連携し通学路の安全点検や登校指導を行ってきた。今後も、保護者や地域と一体となり、児童の安全確保や事故防止へのご協力をお願いし、安全教育を推進していきたい。

## Ⅶ 保護者・地域住民との連携について

### 【保護者・地域住民との連携について（後期） 考察】

#### 1の項目「情報発信」について

各種お便りや授業参観や学校行事の計画など、肯定的な回答が90%を超えている。保護者からの相談や要望に適切に対応しているについても高い評価を得ているが、学校と保護者とのよりよい関係が築けるよう、今後もさらに協力して良い連携をとっていかれたらよい。

#### 2の項目「授業参観 学校行事」について

本校では、月に1度を目安に授業参観や学校行事などで保護者が学校や児童の様子を参観できる日を設けている。授業参観や学校行事の持ち方についてはとても良い評価を得ており、今後も保護者や地域に開かれた学校づくりを進めていきたい。

#### 3の項目「保護者からの相談や要望に適切に対応」について

肯定的な回答が90%を超えており、職員一人ひとり努力している様子がうかがえる。「そう思う」の割合がやや低い傾向にあり、4.8%否定的な回答（内そう思う1%）もみられる。また、保護者と教職員とを比較するとやや開きが見られる。これからも丁寧な説明と素早い対応に心がけ、信頼される学校づくりに努めていきたい。

## 3 まとめ

「Ⅱ 全体評価」で説明したように、アンケート調査の結果を見ると、児童・保護者・教職員あわせ、すべての項目でプラス評価がマイナス評価を上回っている。日常行われている教育活動を継続していくことが大切であるといえる。

第2回の学校評価を踏まえ、今後から更に気を付けて取り組んでいくべきことを以下のようにまとめた。

### 【学校生活について】

○児童の抱える困難さや不安に寄り添い、より良い人間関係が構築できるように、安心できる学校を目指して職員一丸となって取り組んでいく、

### 【学習について】

○安心して発表がおこなえる雰囲気のある学級をつくっていくことは、発言の意欲や回数を高めることに

とても有効である。授業方法の改善にあわせて、学級づくりにも力を入れていく。

○学習内容の定着や学力の向上において、家庭学習はとても重要な役割を担っている。現状、家庭学習の状況には個人差が大きい。家庭学習推進期間の設定回数を増やしたり、家庭学習の内容や方法を工夫したりして、家庭学習を充実させていきたい。保護者の理解と協力を更に求めていく。

### 【生徒指導について】

○あたたかい人間関係の構築に努めるとともに、いじめや非行行動に対する未然防止や早期発見について、いじめや悪いことをしたら先生や友だちにすぐと言えるような学級、学校の雰囲気づくりに努めていく。また、児童の日常の様子にこれまで以上に目を配り、子どもたち同士の人間関係の変化にいち早く気付かなければならない。また、学校では、いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたりたい。

○あいさつ運動については、児童会・PTA・地域の方々とも協力し合いながら、今後も取り組んでいきたい。

## 第1回学校評価を通して決めた指導重点とその取り組みの成果

○すべての児童が、学校が楽しいと思えるような学校づくりを進める。

- ・運動会や学芸発表会などの取組を通し、一人一人が生き生きと活躍できる場を作ることができた。
- ・いじめの無い人間関係を構築するために、安心して学べる教育環境づくりに努め、困難さを抱えていた児童に丁寧寄り添ってきた。その成果が上がってきている。

○OPTAや地域の方々とも協力して、あいさつ運動を進めていく。

- ・児童会を中心に、今まで以上にあいさつ運動の取り組みを進めることができた。
- ・登下校でのあいさつの様子など地域の人に見守られながら、あいさつの大切さを学ぶことができた。

○授業中の発言や質問または意見を言う機会を増やし、発表しやすい環境づくりに努める。

- ・各クラスとも授業の技術は高く、授業の中で、発言する活動を今まで以上に取り入れることができた。
- ・校内研における研究授業では、「学び合い」の場面において、主体的な学び、対話的な学びが行われ、外部講師から高い評価をいただいた。また、その実践を全職員で共有することができた。

○家庭学習を充実させる。

- ・家庭学習強化週間を有効に活用し、子どもたちの習慣化につなげることができた。
- ・学年や学級単位で、家庭学習の内容を工夫し、基礎・基本の定着や、家庭教育の時間の確保を行っていくことができた。

○いじめは絶対に許さないという毅然とした態度で指導にあたる。

- ・クラスづくりに力を注ぎ、安心して学べる教育環境づくりに努めた。支援が必要な児童には、多くの教師がかかわり指導にあたった。全校職員一丸となった指導、協力体制のもと、いじめにつながる小さな気持ちの荒れを収めていくことができた。